

英語英文学科

「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の分野

日本語と英語の「ものの見方」はどう違うのか

教授 植野 貴志子
(専門分野：社会言語学)

日本語と英語の「ものの見方」における根本的な異なりを探り、日本語および英語への理解を深めていきます。具体的には、「I」と「私、僕」、「this, that, it」と「これ、あれ、それ」、過去形"-ed"と「た」の使用を比較し、これら基礎的な語に潜む異なりを考えます。

日英語翻訳・比較

教授 木津 弥佳
(専門分野：言語学・第二言語習得・翻訳)

日本語と英語の文法や文体などを比較して、両言語の共通点と相違点を探ります。また、日英間の翻訳を行う際に生じる文化的問題等を挙げて、翻訳が異文化理解の作業となっていることを示します。

英語の「音」について考えてみよう

教授 小橋 雅彦
(専門分野：英語教育学)

1. 空耳アワー
2. 臨界期仮説
3. 赤ちゃんは音をどう捉えているか
4. しりとり
5. 「音節」と「モーラ (拍)」
6. 音の最も小さな単位「音素(phoneme)」
7. 「開音節(open syllable)」と「閉音節(closed syllable)」
8. オンセット・ライム

Storytelling & Culture

准教授 Kate Bowes
(専門分野：Intercultural Communication)

Stories are a fun way to build your communication skills. They often open up new worlds to explore and reflect on. We will practice storytelling and discuss cultural values and experiences.

How to Be a Global Citizen

准教授 Thomas Fast
(専門分野：Global Citizenship Education)

Students will learn about problems in the world and how they, as global citizens, can help to fix them.

日英語比較

講師 山口 麻衣子
(専門分野：言語学)

日本語と英語の共通するところ、異なるところについていくつか見ていきます。ある表現の意味する範囲が必ずしも2言語間で一致しないことを知っていることで、学習者は誤った表現(訳)を避けることができるようになります。

イギリス文学を楽しむ

准教授 松井 かや
(専門分野：イギリス文学)

『フランケンシュタイン』や『ガリバー旅行記』といった有名な作品を入り口に、文学と社会の関わり（ジェンダーや労働、人間関係、病、差別など）について考えます。ストーリーを味わうだけではない、文学を読む／学ぶ楽しみや意義についてお話しします。

Department
of
English Language
and
Literature

平城びとの遊び心と 『万葉集』

教授 東城 敏毅
(専門分野：日本文学(上代))

日本で最古の和歌集『万葉集』を読みます。『万葉集』は、平仮名ができる前の歌集のため、全て漢字で歌が記されています。その漢字の書き方から奈良時代の生活が垣間見られ、歌の内容とは別の世界が映し出されます。平城びとの世界を発見してみましょう。

ヒーローの条件 —平安期物語の人物と表現—

教授 中井 賢一
(専門分野：日本文学(中古物語))

「ヒーロー」と聞くとどんな人物をイメージしますか？ 平安期の物語には、私たちの常識とは少し異なる「ヒーロー」が多く登場します。平安期物語ならではの背景や表現に注目することで、彼らが「ヒーロー」たりうる条件について考えます。

「初恋」のかがかく

講師 江草 弥由起
(専門分野：日本文学(中世和歌))

現代ミュージックでも古典和歌でも、多くの恋が歌われています。経験した恋を歌うこともあれば、「恋」を題に歌うこともあります。「初恋」の和歌から、恋の歌、恋のふるまいとは何かを考え、現代の美意識についても考えていきましょう。

坪田譲治と岡山

教授 山根 知子
(専門分野：日本文学(近現代の児童文学))

日本における「リアリズム児童文学の祖」と評される岡山出身の坪田譲治は、岡山を舞台とした作品を数多く生み出した作家です。岡山での譲治の体験を知り、「幼時に知った幸福」に支えられた譲治文学を分析することで、郷土の魅力と文学の力を見出しましょう。

小説を飛び出した作家たち

教授 長原 しのぶ
(専門分野：日本文学(近現代の小説))

近代小説の文豪や現代小説の人気作家が作品の世界に留まらず、様々なメディアでキャラクターとして活躍しています。彼らの魅力とは何か。太宰治を中心にその作品を読み解くことで現在の社会がつくり上げる作家像を明らかにし、受け容れられる理由を探ります。

ブックコミュニケーション

教授 伊木 洋
(専門分野：国語科教育学)

ブックコミュニケーションとは、本との思い出や本をきっかけに考えたこと、気付いたことなどを自由に語り合うものです。新たな読書活動として、かたわらにお気に入りの本を置いて、思いを語り合しましょう。

言葉の意味を "考えて"みよう

准教授 星野 佳之
(専門分野：日本語学)

言葉の意味は辞書で"調べる"ものというのが普通でしょう。知らない言葉についてはそれが近道ですが、では"知っている言葉"はもうそれ以上考えるべきことはいないでしょうか。普段考えることなく使うからこそ、言葉について立ち止まって考える講義です。

情報化時代の読書と バリアフリーを考える

准教授 近藤 友子
(専門分野：図書館情報学)

近年はバリアフリーという言葉聞くことが多くなりました。図書館においてもバリアフリーについて考える視点は欠かせなくなっています。情報化時代における図書館を視点とした読書とバリアフリーとの関わりについて考えていきましょう。

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

ニッポンを支える
外国人労働者教授 二階堂 裕子
(専門分野：地域社会学)

今、私たちの社会を多くの外国人が支えています。ただし、いつまでも外国人がニッポンで働いてくれるとは限りません。この講義では、外国人の就労や生活の状況を取り上げたあと、これからも外国人に「ニッポンを選んでもらう」ために必要なことを考えます。

瀬戸内・岡山の
環境とSDGs教授 濱西 栄司
(専門分野：社会集団/組織論・環境社会学)

公害やプラスチックごみ問題、太陽光発電。具体的な事例で、気候変動やエコロジー、SDGsについて考えます。地域・行政・企業との連携活動について高校からのアイデアも募集中。

ジェンダーの視点を
使いこなす教授 山下 美紀
(専門分野：ジェンダー論)

ジェンダー研究は、いまや現代人の必須の知識です。世の中で起こっているさまざまな現象をジェンダーの視点から読み解いてみましょう。新たな発見にワクワクすること間違いなし。

地図・GISから地域の自然
環境や社会環境を考えよう教授 森 泰三
(専門分野：人文地理学)

地理学は、「地域」「場所」にこだわって、それぞれで見られる事象について、「探究」する学問です。そこで重要なのが地図であり、課題を発見したり、探究した内容について地図を利用して可視化したりします。また、コンピュータ上のデジタル地図に位置や空間に関する情報を統合したGISも身近にあります。地図やGISから地域の自然環境・社会環境を考えましょう。

社会の中の“私”
／“私”の中の社会准教授 中山 ちなみ
(専門分野：社会心理学)

「自分の個性に合った仕事をしたい」「趣味を過ごす時間が一番私らしくいられる」など現代は“私”というものへの関心が高まっている時代です。“私”とはどのように形成されるのか？ 心の中にある社会の存在に気づき、社会とつながる“私”に出会ってもらおう授業です。

Department of
Contemporary Sociological Studies

現代社会学科

「社会学」「歴史学」「考古学」「地理学」の分野

戦争と民衆—アジア太平洋戦争下の
岡山空襲を素材に—准教授 久野 洋
(専門分野：日本近代史)

戦争で命を落とすのは、たいていの場合、権力者ではありません。戦場に行く兵士であり、私たち一般の市民です。過去に戦争が起こったときに、権力者たちはどう振る舞い、社会はどうなったのか。本講義では、岡山空襲を素材にして戦争と民衆の関係を考え、歴史を学ぶ意味を問い直します。

**「纏足(てんそく)」から
みた中国文化**教授 鈴木 真
(専門分野：アジア社会史)

かつて中国には、「纏足(てんそく)」と呼ばれる独特な文化が存在しました。これは女性の足の成長を阻害し、人為的に小さな足をつくりだすものでした。現代日本とは異なる価値観の下で行われたこのような文化が、千数百年にも亘って続いた背景を解説します。

中世ヨーロッパの騎士教授 轟木 広太郎
(専門分野：ヨーロッパ社会史)

ヨーロッパの中世はよく騎士の時代といわれます。騎士はたしかに戦場、社会、文化の中心にいました。その戦闘方法、領主としての生活、文学とのかかわりについて紹介します。

考古学の力教授 紺谷 亮一
(専門分野：考古学)

私はトルコ共和国キュルテペ遺跡で発掘をしています。トルコを含む西アジア地域は、都市・農耕・牧畜・文学・交易が地域に先駆けて開始された場所です。つまり、かつて人類史において最も先進地域だったのです。この点を明らかにしたのは考古学の力です。では、考古学にはなぜそのような力があるのでしょうか？

Department of
Contemporary Sociological Studies

人間生活学科

「経営・経済学」「社会福祉学」「人間関係学」「生活環境学」
 「被服学」「調理学」「住居学」の分野

福祉の先駆者に学ぶ

教授 杉山 博昭
 (専門分野：社会福祉学)

社会福祉を先駆的に切り開いた人物を取り上げ、その歩みをたどっていきます。特に岡山出身者に多くいるので、岡山に関係する人を取り上げていきます。

数理・データサイエンス
・AIを学ぶ

教授 大東 正虎
 (専門分野：情報技術論・社会シミュレーション)

情報技術の活用が盛んになり、さまざまな活動がコンピュータに記録されるようになってきました。企業や自治体などにおいて、これらのデータを分析、活用できる人材に期待が寄せられています。本講義では、数理・データサイエンス・AIの概要を述べます。

生活力を高めるための
金融教育

教授 豊田 尚吾
 (専門分野：生活経済学)

高校でも金融教育が始まっています。それだけ現代における金融リテラシー獲得の重要性が高まっていることを意味しています。ファイナンシャルプランナーの資格を持つ教員による、家計管理からFIREまで、身近な話題をもとにお話します。まずは第一歩を踏み出しましょう。

ターゲットの変化から
マーケティングを考える

准教授 井上 和久
 (専門分野：マーケティング、
 ソーシャル・イノベーション)

消費者ニーズが多様化する現代、マーケティング戦略は大きく変化しています。ロングセラー商品でもターゲット層を変化させ、戦略の見直しが行われています。本講義では、成功事例をもとにマーケティング戦略の変化を考えます。

ボランティアって何だろう

准教授 中井 俊雄
 (専門分野：ボランティア・福祉)

ボランティアって何だろう？困っている人がいたら、災害がおこったら…。自分のことだけでなく、ほんの少しの思いやりと勇気をもって、自分に何ができるのか考えていただくためのヒントをお伝えします。

Department of
 Human Living Sciences

人間生活学科

「経営・経済学」「被服学」「調理学」「社会学」「社会福祉学」「人間関係学」「生活環境学」の分野

これからの住まいづくり ・まちづくりを考える

准教授 成清 仁士

(専門分野：建築史/意匠学・まちづくり)

中心市街地活性化に係るまちづくりの実務経験及び住民主体のNPOと協働した歴史ある住まいを再評価し受け継いでいくための活動経験を踏まえて、これからの住まいづくりやまちづくりを考えていくための視点を多角的に取り上げて講義します。

ジブリのアニメ作品にみるヒット の法則—作品の魅力と広告のカー

准教授 葉口 英子

(専門分野：広告論・メディア文化論)

スタジオジブリのアニメ作品は高い人気を得ています。人気の要因には宣伝の力も大きく関連しています。講義ではアニメ映画がどのように制作され、宣伝され、収益をあげているのか、映画業界の仕組みにも触れながらその人気の秘密を解説します。

ソーシャルワーカーから 学ぶコミュニケーション

准教授 濱崎 絵梨

(専門分野：高齢者福祉論・ソーシャルワーク)

「コミュカ＝話がうまい」ではありません。コミュニケーションスキルについて、人と人、人と社会を「つなぐ」専門家であるソーシャルワーカーの技術から学びます。ちょっとしたコツを身に付けましょう。

持続可能な食生活を営む力 を身に付けるには

助教 立石 麻美子

(専門分野：家庭科教育学・福祉科教育学
・消費者教育学)

食品産業の進展や食の外部化により、食料生産に関わるものが少なくなりました。生活者、消費者として、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、選択できる力が求められています。事例をもとに、自分達ができることを一緒に考えましょう。

Department of
Human Living Sciences

児童学科

「心理学」「教育学」「児童文化学」
「芸術（美術・音楽）」「インクルーシブ学」の分野

色を作る

教授 片山 裕之
(専門分野：絵画)

絵画（色）遊びは子どもの感受性を養います。色彩の基本である三原色について、実技を通して理解を深めてもらいたいと思います。

エピソードで学ぶ 子どもの育ち

教授 湯澤 美紀
(専門分野：発達心理学・保育学)

子どもは科学者であり哲学者。子どものふとしたつぶやきに見る自然への鋭い洞察と時に柔らかな人間理解を、森のようちえんに通う子どものエピソードから学んでいきます。そして、子どもの育ちにとって大人の役割とは何か？ あらためて考えていきます。

感性を育む

～歌唱表現やリズム遊びを通して～

教授 池田 尚子
(専門分野：音楽)

私たち大人は、子どもたちが音楽を聴いたり表現したりするときどのような働きかけができるでしょうか。感性を育み、美しいものを美しいと感じるだけでなく、より深く感じる心は、日々の豊かな経験から育まれていきます。歌唱やリズム遊びを通して一緒に考えてみましょう。

子どもと絵画の世界

教授 小田 久美子
(専門分野：美術教育・造形)

子どもの絵に関する研究は、始まって150年ほどと、他の学問の歴史と比較すると実はそう長くはありません。20世紀を代表する画家をはじめとした、多くの現代人の心をとらえる子どもの絵とその世界の魅力を、新しい学問として一緒に考えてみましょう。

多文化と人育てを訪ねて

教授 西井 麻美
(専門分野：教育学・ESD)

持続可能な社会を作る路を、多文化と人育てを心にとめて、訪ねてみませんか。
◆約400年近く続く、ドイツの民衆劇
◆巡礼者たちが辿り着くスペインの聖地など世界で時空を経て紡がれる姿は、人育てについて様々な気づきを私たちに与えてくれるかもしれません。

算数はたくさん覚えな といけない教科なの？

准教授 杉能 道明
(専門分野：算数科教育・教育実践学)

算数は覚える教科という誤解があります。違います。少なく覚えてたくさん考えることで考える力を育てることができる教科です。これは、なぜ算数を学ぶのかという算数を学ぶ意義ともつながります。具体例をもとに一緒に考えてみましょう。

You can do it !

准教授 福原 史子
(専門分野：モンテッソーリ教育・家庭教育
・小学校英語教育)

小さいころ、何かに挑戦し、夢中になって何度も繰り返し、ついにできるようになった経験はありませんか？ 自分の力でできるってステキですね。この「一人でできる！」を支える教師や保育者のあり方について、一緒に考えてみませんか。

絵本やわらべうたを 楽しもう

准教授 三宅 一恵
(専門分野：幼児教育・児童文化)

幼い子どもたちにとって、身近な大人が応答的に関わることはとても大切なことです。絵本やわらべうたの実践などはそのために欠かせないものです。子どもたちに読み聞かせたい絵本やわらべうたについて一緒に考え、子ども理解を深めていきましょう。

児童学科

「心理学」「教育学」「児童文化学」
「芸術（美術・音楽）」「インクルーシブ学」の分野

一生の心と体をつくる幼児期・児童期の運動遊び

准教授 安江 美保
(専門分野：舞踊教育・体育科教育)

逆上がりのできない子どもが、逆上がりができるようになるには、何から教えたらいいと思いますか。また、そもそも逆上がりができるようになる必要があるのでしょうか。幼児期・児童期の運動遊びについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

保育に生かす絵本選び

講師 片平 朋世
(専門分野：児童文化・幼児教育)

絵本を読んでもらうことは、「楽しい」ものです。では「楽しい」ってどういうこと？保育の中では、子どもが「喜び」を味わえるものを繰り返し読み、仲間と共有して活動に生かしています。事例をもとに、子どもが感じる「喜び」について考えてみましょう。

ストレスって何だろう？

講師 梶原 彰子
(専門分野：臨床心理学・心身医学)

なんだか分からないけどお腹が痛い、頭が痛いというようなことはありませんか。人はストレスを受けると、心だけでなく体に症状がでることがあります。ストレスについて体験して、学んでみましょう。

子どもと一緒に遊びを創る

—子どものつぶやきに耳を傾けて—
講師 西山 節子
(専門分野：幼児心理学・保育学)

子どもたちにとって、遊びは大切な学びの場です。保育者は、子どもたちの興味や関心をしっかり捉え、子どもたちのつぶやきをつなぎながら、子どもたちと一緒に遊びを創っていきます。保育現場での経験を基に、具体的な遊びの事例を、エピソードや写真を交えながら紹介します。保育者の仕事にはどんなことがあるのか考えてみましょう。

子どもの世界

—音・音楽とかかわって遊ぶ—
講師 藤掛 絢子
(専門分野：子ども学・保育学(表現・音楽))

乳幼児期の子どもたちは、遊びの中で、じっと音を聴き、想像を膨らませて音や音楽とかかわっています。そこには、私たちが考える「音楽」の枠組みを超えた、思考や表現の豊かさをみることができます。子どもたちの姿やその育ちを支える保育の在り方について考えます。

※インクルーシブ学を専門分野とする教員（中内・青山・土居・東）の出張講義については、インクルーシブ教育研究センターの項を、心理学を専門分野とする教員（日下）については、児童臨床研究所の項をご参照ください。

Department of Child Welfare

食品栄養学

「栄養生化学」「食生態学」「栄養管理学」「食品学」の分野

アミノ酸と健康科学

教授 小林 謙一
(専門分野：生化学・基礎栄養学)

アミノ酸は、「からだ」を構成するタンパク質の材料としてだけでなく、「こころ」に関わる神経伝達物質としても重要な役割を担っています。また、アミノ酸代謝の異常が病気と関連することも知られています。そんなアミノ酸と健康との関わり合いについて解説します。

ストレスを測る

教授 戸田 雅裕
(専門分野：公衆衛生学)

個人のストレスを定量的に測定することは、他者との比較、またその軽減や対処手法の確立において非常に重要であると考えられます。本講義では、ストレスに関する基本的事項を述べるとともに、その主観的客観的評価手法について解説します。

食リスクと菌類のかかわり

教授 長濱 統彦
(専門分野：食品衛生学)

ほとんどすべての食品が何らかの有害な要素を含んでいます。菌類はカビ、キノコ、酵母に代表される微生物群であり、発酵食品などを通じて食品と深くかかわっています。これらが関連する食品のリスクについて分かりやすく論述します。

コーヒー香気の薬理学

教授 林 泰資
(専門分野：生理学・薬理学)

コーヒーは、世界で最も消費されている嗜好飲料です。コーヒーと健康に関する研究は数多くあり、糖尿病、肝臓癌、パーキンソン病などのリスク低下が報告されています。本講義では、コーヒーの香りに注目し、その機能性と嗜好性について解説します。

管理栄養士って どんな職業？

教授 坂本 八千代
(専門分野：臨床栄養学)

最近、管理栄養士という職業を耳にすることが多くなりました。似た言葉に栄養士、健康管理士もあります。どこが違うのでしょうか？ 病院、福祉、行政だけでなくスポーツから災害支援まで活躍の場があります。管理栄養士の仕事について幅広く紹介します。

健康づくりのための 食育って？

准教授 焰硝岩 政樹
(専門分野：公衆栄養学)

「食育」という言葉はよく聞きますが、具体的に説明できる人は少ないのではないのでしょうか。私たちが健康に過ごすためには、日頃から健康づくりのための「食育」を実践することが大切です。自分自身の食生活を振り返り、「健康づくりのための食育」を一緒に考えます。

Department of
Foods and Human Nutrition

食品栄養学

「栄養生化学」「食生態学」「栄養管理学」「食品学」の分野

給食利用者に合わせた 栄養・食事管理

准教授 小山 洋子
(専門分野：給食経営管理論)

給食は利用者が規則正しい食習慣を身に付け、より健康的な生活を送るために必要な知識を習得する良い機会です。ではどのような給食を提供すると良いでしょうか。経営面、栄養面、食環境面など多面的な視点から「給食」について考えていきたいと思えます。

食品中の水の不思議

准教授 吉金 優
(専門分野：食品学)

食品に多く含まれる成分として、「水」があります。水分子 H_2O が多数集まった液体状の水は、極めて特異な性質をもちます。この食品中の水の特異性が、食品の保存性、味、物性などに大きく影響し、調理・加工にも大きな役割を果たします。食品中の水の性質について解説します。

健康な食事の実践

准教授 小川 眞紀子
(専門分野：調理学・応用栄養学)

日常の食事で健康を保持、増進していくために「何を、どれだけ食べたらよいか」の把握はわりと難しいです。そこで、分かりやすく実践しやすい食育ツールとして、「食事バランスガイド」「3・1・2弁当箱法」の活用について解説します。

行動変容のための栄養教育

—食生活の課題と展望—

准教授 若本 ゆかり
(専門分野：栄養教育論)

健康維持のためには、不適切な食行動を望ましい行動へと改善（変容）することが重要です。行動変容のために求められる教育・指導方法と、不適切な食行動が生じやすいライフスタイルの現状や課題について、関連付けながら解説します。

誤嚥（ごえん）を防ぐ 食事があるって本当？

講師 園井 みか
(専門分野：臨床栄養学)

高齢社会になり、誤嚥性肺炎で亡くなる人が増えています。病気や加齢で誤嚥（飲み違い）をしやすくなった人たちにはどんな食事が食べやすいのでしょうか？ やわらかければ良い？ そんな食事について、どんな工夫ができるか考えてみましょう。

Department of
Foods and Human Nutrition

国際文化学科

「グローバルスタディーズ」「多文化共生」「表象文化」の分野

ベトナムの今～人々の暮らしと法～

教授 岩瀬 真央美
(専門分野：ベトナム法・国際経済法)

ベトナム社会で暮らす人々の日常生活を取り上げて、講師のベトナムでの現地調査において経験したベトナムの食文化や日常生活の中に存在するルール（法）を紹介するとともに、グローバル化の中で変化するベトナム社会や人々の暮らし、そして社会のルールである法の在り方について考えます。

なぜ世界は仲良くできないのか？

教授 土佐 弘之
(専門分野：国際関係論・政治社会学)

ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル／パレスチナ紛争など、国際政治において目に付くのは暴力的な衝突です。なぜ、こうした暴力的事態が起きるのか、について、国際政治学・平和学等の知見を使いながら、みなさんと考えていければ幸いです。

英国の女性参政権運動と日本女性への影響

教授 富田 裕子
(専門分野：日英比較女性史・英国文化と社会)

戦後1945年に日本では女性に参政権が与えられましたが、現在までに3人の女性首相を生んだ英国の場合はどうだったのでしょうか。同国における女性参政権運動発生の歴史的背景、活動内容とその成果を解説し、日本女性に及ぼした影響も考察します。

漢字文化圏の似て非なる社会と文化

教授 陳 來幸
(専門分野：アジア社会経済史・華僑華人研究)

儒教や仏教の影響を受け、箸を使う朝鮮半島、中国、日本、ベトナムはかつては漢字文化圏でもありました。今や異なる政治体制を敷きながらも相互に移民を送り出し、貿易も盛んです。まずはこれら近隣諸国とどのように付き合うのがよいのかを考えてみましょう。

パイナップルと「日本人」

教授 八尾 祥平
(専門分野：社会学・移民研究)

パイナップル産業はハワイから台湾、沖縄へと移転し、その担い手は日本・沖縄・台湾の移民でした。高校の「歴史総合」の重要テーマである近代化・大衆化・グローバル化と私たちのふだんの暮らしがどのように結びついているのかをパイナップル産業の歴史から解説します。

パインの戦争協力

教授 八尾 祥平
(専門分野：社会学・移民研究)

社会の大衆化と総力戦体制との結びつきは高校で学ぶ「歴史総合」の重要テーマの一つになっています。パイン缶詰を通して、私たちがあまり意識しなくても、総力戦体制が私たちのふだんの暮らしと戦争を強く結びつけていることを明らかにします。

ビジュアル資料から読み解く戦争報道

教授 貴志 俊彦
(専門分野：アジア史、表象・メディア研究)

私たちにとって遠い過去の話になった戦争が、いま世界各地で発生しています。戦時中の日本で行われていた報道を振り返ることが、いま、そして今後を生きる教訓となるのか。戦時下の写真を使って考えていきましょう。

あなたの名前はいくつありますか？

－他言語における日本語名の使用に関する異文化的視点－
教授 末弘 美樹
(専門分野：言語文化学、複言語・複文化主義教育)

日本の外務省は、日本人のアイデンティティの尊重を目的として、英語で氏名を表記する際に、日本語の姓名順を維持するよう方針を示しました。未来を切り拓く原動力としての多様性に着目し、複言語・複文化主義教育がもたらす革新と可能性について、名前というテーマを通して一緒に考えてみましょう。

国際文化学科

「グローバルスタディーズ」「多文化共生」「表象文化」の分野

東南アジアの多民族社会

准教授 工藤 裕子

(専門分野：東南アジア史・インドネシア地域研究)

東南アジアのほとんどの国は、多民族国家です。言語や習慣、宗教が異なる人々が一つの同じ国の国民としてどのように日常を過ごし、共生しているのか、またその課題について、日本と比較しながら考えてみましょう。

アフリカポピュラー 音楽の世界

准教授 松平 勇二

(専門分野：文化人類学・アフリカ地域研究)

アフリカでは音楽が社会を動かしてきました。日常生活から戦争まで、あらゆる場面で音楽が力を発揮します。アフリカではなぜ音楽がそのような力をもちうるのか。各地のポピュラー音楽の事例を紹介するとともに、アフリカ音楽の体験を通して考えてみましょう。

途上国支援の理想と現実

准教授 松平 勇二

(専門分野：文化人類学・アフリカ地域研究)

SDGsの目標の1に「貧困をなくそう」があります。しかし実際に貧困にあえぐ個人々の援助には多くの困難を伴います。私自身がジンバブエ共和国でおこなった支援活動、その課題と成果について紹介します。そして途上国支援や貧困解決のむずかしさについて議論しましょう。

外国人居留地って どんな場所？

講師 郭 まいか

(専門分野：中国近代史・租界史)

近代の中国には租界という外国人居留地が存在しました。中国は、租界を通じ、西洋の文化や思想を取り込むことで近代化を進めましたが、租界は同時に、中国の主権を侵害するものでもありました。このような外国人居留地のあり方について、考えてみましょう。

ブラジル日本人移民の 歴史と在日ブラジル人

講師 長村 裕佳子

(専門分野：社会学・移民史)

なぜ日本から遠く離れたブラジルから、これほど多くの労働者が働きに来ているのでしょうか。百年前のブラジルへの日本人移民の歴史から、ブラジル人の来日を紐解いてみましょう。日本とブラジルの交流、日本人移民が海外で継承してきた文化・経験を紹介します。

Department of Global Studies

情報デザイン学科

「情報学」「データサイエンス」「データ解析」の分野

プログラミングによる
音楽パフォーマンス教授 天野 憲樹
(専門分野：情報科学)

プログラミングが最先端の音楽パフォーマンスに利用され、多くの人々を魅了しています。プログラミングは楽器の演奏にも通じる楽しい創造的な活動です。本講義では、デモを交えて音楽プログラミングを紹介します。

国際経済学—食料の視点から

教授 上林 篤幸
(専門分野：国際経済学・計量経済学)

毎日のニュースで報道されるように食品の値上げが続き家計を直撃しています。我が国は食料の大部分を海外から輸入しているため、世界の農産物マーケットの現状分析と今後の見通しについての正しい理解は重要です。これらを経済学的視点から学びます。

安心・安全な通信を目指して
—インターネットの仕組みと
安全確保の取り組み—教授 河野 英太郎
(専門分野：ネットワークセキュリティ
・ネットワークソフトウェア・インターネット)

インターネットの仕組みは、電話の仕組みに対して自律分散の考え方が採り入れられ、50年ぐらい前から開発や研究が進み急速に普及したネットワーク技術です。一方で、その急速な普及により通信のセキュリティは立ち遅れています。本講義ではそれらの内容を説明し、近年の取り組みについてご紹介します。

暗号のしくみ

教授 小松 文子
(専門分野：情報セキュリティ・暗号基盤)

情報の秘匿や相手の認証のしくみに暗号が多く使われていることを紹介します。簡単な文字列を暗号化・復号し、暗号のしくみを理解しましょう。

安全なソフトウェアって
どう作るの？ どう守るの？教授 左近 透
(専門分野：ソフトウェア仕様記述/検証・時系列解析
・統計的推測・統計的予測/制御・セキュリティ)

いまや車や家電製品、医療機器にいたるまでソフトウェアで動いていないものは無いと言って良いです。では、そのソフトウェアで動かされている製品が安全に動くことを保証するのはどうやっているのでしょうか？ 安全とリスクに対する考え方から説きおこします。

統計的因果推論入門

教授 陳 光輝
(専門分野：応用計量経済学)

偏差値の高い大学の出身者は平均年収が高いというデータがあります。これは大学偏差値と年収の間の因果関係や「高偏差値大学の収入引き上げ効果」を示すといえるでしょうか。こうした因果推論・効果検証の問題はどう解くのか、その考え方を講義します。

Department of Data Science

ICOCAはこう動く

教授 中本 幸一
(専門分野：情報工学)

ICOCAを始めとする交通系ICカードは非接触ICカードと呼ばれ、立派なコンピュータが入っています。この講義ではICOCAの動作の仕方、ICOCA等交通系ICカードを含むコンピュータの形をしていないコンピュータである組込みシステムの特徴と開発する面白さを紹介します。

人工知能「AI」の中身を知ろう

教授 吉川 隆士
(専門分野：コンピュータ・ネットワーク・AI応用)

AIのニュースをたくさん見かけるようになりました。AIとはコンピュータが知能を獲得したのでしょうか。人間に置き換わっていくのでしょうか。この講義で、AIの中身がどうなっているのか、どう動いているのかを知りましょう。AIが身の回りのどんなことに使えそうか、みなさんで考えるきっかけになればよいなと思っています。

「ネット」はどうできて、どう動いているのか

教授 吉川 隆士
(専門分野：コンピュータ・ネットワーク・AI応用)

「ネット」は人やモノを結びつけるサービスと、そのデータを運ぶネットワークでできています。ネットワークとは何か、データをどうやって運んでいるのかを糸電話から始めて考えていきます。ネットワークの上で人やモノがどのように結び付くのか、その源が「パワー」であることを知って、世の中の仕組みを考えるきっかけになればよいなと思っています。

あなたの知らない視覚の世界

教授 鈴木 雅洋
(専門分野：実験心理学・人間情報処理
ユーザインタフェース)

視覚についてお話しします。一説には「人間が得る情報の8割は視覚」とも言われ、人間の主要な情報源である視覚は、情報デザインにとって重要です。さまざまな視覚現象のデモを体験して、視覚への理解を深めましょう。

人の理解とテクノロジーで創造する体験のデザイン

准教授 鈴木 優
(専門分野：インタラクションデザイン
・ヒューマンコンピュータインタラクション)

一般的にはデザイン＝意匠・外観と理解されますが、「インタラクションデザイン」分野ではそれらに加え、使い方や使ったときに得られる体験などもデザインの対象とします。本講義では、ユーザーとモノとの関係性にまでに及ぶ、ユーザーの存在を意識したデザインの本質やその重要性について学びます。

ソフトウェアの中身ののぞきかた

准教授 神田 哲也
(専門分野：ソフトウェア工学)

世の中ではいろいろなソフトウェアが動いています。ソフトウェアをより良く、速く作る技術を実現するためには、既存のソフトウェアの中をのぞいて分析しなければなりません。どのようなソフトウェアをどうやって分析しているのか、その概要を紹介します。

情報デザイン学科

「情報学」「データサイエンス」「データ解析」の分野

マーケティングとデータ
分析の“おいしい”関係

准教授 前川 浩基

(専門分野：データ分析・マーケティング)

「マーケティングとは何か」を説明したのち、アイスクリームの売上予測を例に、仮説の設定、データの収集、データの分析、分析結果の解釈といった一連の流れをわかりやすく紹介します。また、この知識が活用できるさまざまな業種・職種についても考えます。

オープンデータを使った
データ分析体験
～ データを用いた仮説・
検証のプロセス

准教授 前川 浩基

(専門分野：データ分析・マーケティング)

高校までの「勉強」と、大学からの「研究」の違いを理解することの一助として、データを用いた仮説・検証のプロセスを学びます。国が公開しているオープンデータの分析を体験し、データの活用方法・解釈方法を学ぶことで、仮説・検証の大切さを理解します。

情報・コミュニケーション・
メディアをどう捉えるか？

講師 大西 洋

(専門分野：高校情報科・総合的な探究の時間
・共通テスト「情報I」・情報学の基礎概念)

高校情報科で扱う基礎概念に、情報・コミュニケーション・メディアがあります。ですが、これらの概念はどのようなもので、相互にどう関連するのか不明瞭です。本講義では、基礎情報学や社会システム理論に基づき、これらの概念を体系的に整理して学びます。

プログラミング言語
Pythonを用いた物理
シミュレーション

助教 柳生 光義

(専門分野：プラズマ物理学
・大規模シミュレーション)

自然現象をシミュレーションするには、数式で表現される物理モデルをプログラミングで表現する必要があります。本講義では、簡単な物理モデルとPythonを用いて、シミュレーション技法について学びます。

Department of Data Science

英語教育センター

翻訳と通訳の違いは 何ですか？

—通訳と翻訳のための必要な言語能力、
知識やスキルの分析—

准教授 Jason Williams
(専門分野：外国語教育・翻訳)

この講義では、翻訳と通訳の違いについて説明します。多くの方は、翻訳と通訳は同じだと考えています。しかし、それぞれ独自のスキルや知識が必要です。それは何でしょうか？ どうすれば翻訳者や通訳者になれるのでしょうか？ これらの疑問について話しましょう。

アクティブ・ラーナーに なろう

—英語学習が今より好きになるために

准教授 調子 和紀
(専門分野：英語教育)

アクティブ・ラーニングの手法を用いた英語授業を体験します。「英語で学ぶ」ことに対して、今よりも少し興味・関心を持てることを目指してみます。

英語学習の科学

—データにもとづく効果的な勉強法—

講師 高橋 昌子
(専門分野：英語教育)

英語の習得に、動機づけや、学習方法がどのような役割を果たしているのかについて考えます。英語学習に正解はありませんが、第二言語習得研究にもとづいて、より効果的な英語勉強法を体験してみましょう。

インクルーシブ教育研究センター

センター

「インクルーシブ教育研究センター」

共生社会の形成に向けて

～インクルーシブな心・聴く力、
コミュニケーション力の育成～教授 日下 紀子
(専門分野：臨床心理学)

一人ひとりが自分と他者を互いに尊重しながら、より心豊かに生きていくためには、相手を理解し、自分をきちんと表現するコミュニケーションが欠かせません。その基盤となる聴く力、コミュニケーション力はどのように育まれるのか、一緒に考えていきましょう。

LGBTQからSOGIEへ

～人権から考える

教授 中内 みさ
(専門分野：病弱児教育・臨床心理学)

SOGIEとは性的志向（Sexual Orientation）、性的自認（Gender Identity）、性的表現（Gender Expression）の頭文字をとった言葉です。LGBTQより広い概念です。人権とは、私たち一人ひとりが当たり前に行うことができる基本的な権利のことを言います。SOGIEについて、人権の観点から学びます。

共生社会の形成に向けて

～生きづらい子どもたちの生活支援～

教授 山下 美紀
(専門分野：家族社会学)

多様な人々が共生できる社会の実現に向けて、家族、学校、地域生活のなかに潜む、子どもたちを生きづらくしているさまざまな問題を一緒に考えていきましょう。

ケアの包摂性を考える

～つながりを生きるかたち～

教授 崎川 修
(専門分野：現代哲学・人間学・キリスト教倫理)

ケアとは、私たちが人間として生きていくために与えられた「つながり」のかたちです。ケアの営みを日常的な視点から考えながら、包摂的（インクルーシブ）につながっていく社会のあり方や、そこから見えてくる人生の意義について、一緒に考えたいと思います。

“障害”のある子どものより
良い成長を支援するために准教授 東 俊一
(専門分野：障害児心理)

近年、障害のある子どもへの支援の重要性が叫ばれています。では、“障害”とはどのようなもので、障害のある子どものより良い成長を促すために、どのような支援が必要なのでしょう？その概要について紹介します。

共生社会の形成に向けて

～インクルーシブってなんだろう？～

准教授 青山 新吾
(専門分野：インクルーシブ教育・特別支援教育)

様々な出来事について、「どうして～のように言ったのかな？」や「どうして～がうまくいかなかったのかな？」のような『やさしいどうして？』のまなざしを向けることを通して一緒に考えたり悩んだりしながらインクルーシブを考えていきましょう。

共生社会の形成に向けて

～特別支援教育の視点を取り入れた教育～

准教授 土居 裕士
(専門分野：社会科教育・特別支援教育
・インクルーシブ教育)

教室の中に存在する多様な子どもたち。すべての子どもの学びやすさを生み出すためにどのようなことができるのでしょうか。特別支援教育やインクルーシブ教育という視点から、多様な子どもたちを包摂する教育のかたちについて一緒に考えていきましょう。

キリスト教文化研究所

日本文学とキリスト教

教授 山根 道公
(専門分野：日本キリスト教文学)

日本文学者の中で、キリスト教と深く関わり、それをテーマにした作品を書き続けた作家の代表として、芥川龍之介と遠藤周作を取り上げ、作家の生涯をたどりながら、そこから生まれたキリスト教的テーマをもつ作品について解説し、その現代的な意義を考えます。

台湾先住民族とキリスト教

講師 岡田 紅理子
(専門分野：文化人類学)

台湾において、キリスト教が政治・文化に与えた影響は小さくありません。特に先住民族社会においては、それが顕著です。台湾の歴史を概観しながら、今日に至る先住民族とキリスト教会との関わりを紹介し、キリスト教が先住民族社会に果たす役割を考えます。

児童臨床研究所

ストレスを学ぼう

教授 中内 みさ
(専門分野：病弱児の心理的支援・臨床心理学・特別支援教育)

「ストレス」とはよく使われる言葉ですが、ストレスとは何でしょうか。ストレスは私たちにどういう影響をもたらすのでしょうか。私たちはストレスにどう対応していけばよいのでしょうか。みんなで一緒に考えていきたいと思います。

聴く力とケアの心理

教授 日下 紀子
(専門分野：臨床心理学・精神分析学・教育相談)

一人ひとりが自分と他者を互いに尊重しながら、より心豊かに生きていくためには、相手を理解し、自分をきちんと表現するコミュニケーションが欠かせません。その基盤となる聴く力、コミュニケーション力、ケアの心理について、一緒に考えていきましょう。